

単元名 文字の歴史を考える

1. 単元の目標・ねらい（題材設定の理由など）

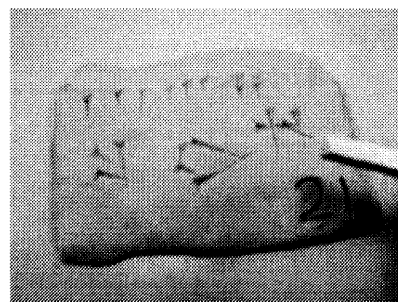
文字には、さまざまな文化と、膨大な時間が関係している。絵画で伝達した時代、文字が生み出された時代・文明、文字の発展していく過程、活版印刷が考え出され普及していく時代、活字が手軽にあつかえるようになった現在。そのような中から、個々の生徒がそれぞれのテーマを見つけ出し考えていく。

身近なものの中にも、少し視点を変えるといろいろな疑問が見つかる。深く文字を考えることによって、そういった疑問・課題を解決していく道筋を学ばせたい。

①単元の構成と特色

<体験を通して>

粘度に葦の茎、パピルス・羊皮紙に羽ペン、亀の甲羅、木・竹に毛筆、紙に毛筆。書く道具と書かれる素材によって必然的に文字の姿が決まってくる。ここでは、楔形の線はなぜそういう形なのか、ゴシック体などの線の細太はどうやって出すのかを実際に刻んだり、書いたりしてみる。粘土板には、絵文字を書くよりも楔形を刻む方が楽であるというようなことを、体験を通して理解する。また、印刷のひとつとも考えられる拓本をグループに分かれて採る。



<テーマに沿った資料を探す・調べる>

かなりの分量の資料は準備するのであるが、それ以外にも自分で興味のある分野・テーマを探して本やインターネットでさらに探求していく。どのような資料を、どのように集め、どう使えば良いのかを学ぶ。

<自分なりの答えを考え、レポートにまとめる>

ここであつかう内容は、大概ははっきりした答えのない疑問である。それに対して、資料を整理し、考えを進め、自分なりの結論を導き出し、まとめていく。一問一答形式ではない問いへの答えを考えることで、いろいろな問題に対する解決能力を養う。

②主題に迫るための手だて

<生徒に考えさせること>

文字に関して体験させ、資料を提示し、幅広く考えさせ、そのあとそれぞれのテーマを選択してまとめさせる。

○時代が経つにしたがって、文字はどのように整理され発展したのか。

○地域・文化によってどのように文字は変化し多様化したのか。

[書き手の問題] 書記など一部の人が文字をあつかっていた時代から、大半の人が文字使用する時代への変化を考える。

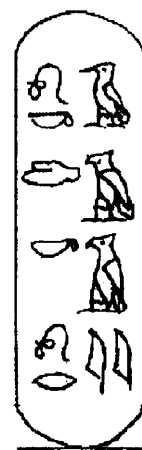
[用具等の問題] 書くものと書かれるものの関係の中で文字はどのような必然で変化してきたのか。

[表意文字と表音文字の問題] 大半の国で、表意文字から表音文字へと移行しているのはなぜか。中国ではなぜ表意文字を現在でも使用しているのか。

[文字の系統樹] アジアだけでも、大きく分けて、漢字系・アラビア系・インド系の文字がある。現在も絵文字を使用している地域もある。多様な文字を比較しまとめることによって何が見えてくるのだろうか。

[書字方向の問題] 文字使用の初期段階には、書字方向は一定しておらず、文字の向きもそれによって変化するということが見られる。それが整理される過程を考える。

[印刷の歴史] 手書きの文字が使用される一方、同じ文書等を大量に作る努力もおこなわれてきた。グ



ーテンベルクによって完成されたといつてよい活版印刷であるが、それ以前にはどんな試みがあったのかを探る。

以上のようなことを踏まえて考えていくのが、東洋と西洋の文化の違いである。文字の生み出された背景、それぞれの文字使用による文化への影響。その単純ではない相互作用を考えることにより、東洋と西洋の長い年月の積み重ねによってできた文化の差を理解していく。

ア B C

<考えを広げたり、深めたりするための手立て>

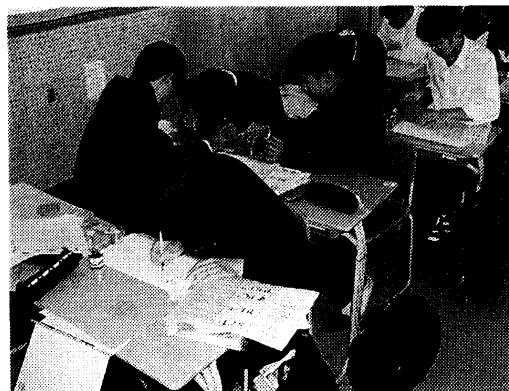
ひとつの疑問に対して、ひとつだけの答えを出さない。例えば、「縦書きと横書きは何が違うのか。横書きでは、対称的な書き方が簡単にできるが、縦書きでは考えにくい。これは、自然の摂理と何か関係あるのだろうか。」とか「表意文字から表音文字への流れに

ついて。日本語の音に漢字を当てはめていったときに、必然的に表音文字化しなければならなかったということから、いろいろな言語で表音文字を使用している事実を考えることができるか。」というように、周辺の事柄まで広げて考えたり、探求したことを応用できるかというようなことに重点をおく。

生徒から出てきた意見・考え等で参考になるものは、できるだけ授業で提示し、他者の考えを取り入れることによって、新たな知を創造していく。その過程で当初の考えよりも、どれだけ見方が広がったり、深まったりしたのか。それまでの蓄積や変化を追っていく。それと同時に、生徒にも振り返らせながら、それまでやってきたことの意味を理解させていく。

<まとめ>

文字や文字の歴史を考えていくことを通して、身近で当たり前だと思っていたことにも疑問を感じたり、ひとつの物事でも角度を変えて見るができるような態度を養ってほしい。そして、それを解決していくためには、どの本を調べるのか、どのホームページを検索すればよいのか、そのあとそれらを元に自分としてはどう考えていけばよいのか、というような方法を生徒一人ひとりが身につけていってくれることを願っている。



2. 評価の観点・方法

出発点は同じであっても、行き先がそれぞれ異なるため評価は難しいが、目標の設定の仕方、どれほど幅を広げることができたか、角度を変えて考えることが

できたか、あるいは到達度というようなことを見ていく。いろいろな観点から評価をする必要があると考えている。

○文字に対する興味・関心・知識・意欲・態度

文字を書いたり、刻んだりしたものは、その都度提出させる。また、何回か課題を宿題として出す。次回までに調べたり考えたりして提出させる。提出物の深まりであるとか、広がりであるとかを逐次見ていく。

○文字の歴史をいろいろな角度から捉え理解し判断する能力

文字の歴史を文字のみならず、他の歴史であるとか、いろいろな事象などと結びつけたりしながら、自分の考えをまとめることができたか。



3. 単元計画 文字の歴史を考える (配当時間計 12時間)

テーマ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>書いてみよう・刻んでみよう ー楔形文字・ヒエログリフ・甲骨文字ー (2時間)</p>	<p>○楔形文字・ヒエログリフ・甲骨文字, それらが実際にかに書かれたのか(刻まれたのか)を体験してみる。 ・三種類の葦のペン(割り箸で作る)で, 粘土板に楔形文字を刻む。 ・ヒエログリフや甲骨文字で自分の名前を書いてみる。</p>	<p>○書く道具, 書かれるものの材質によって, 文字はどのような制約を受けるのか, 体験を通して考えさせる。 ○楔形文字・ヒエログリフでは隙間なく書く。甲骨文字は余白を十分に取る。</p>
<p>書字方向 ー縦書きと横書きの違いー (2時間)</p>	<p>○楔形文字は, 現在のアルファベットと同じ, ヒエログリフには4通りの書き方がある。甲骨文字は縦書きで2通りの書き方がある。それぞれの文字との関連を考える。</p>	<p>○書字方向と文字の向きの関係を考える。 ○他にどのようなものが考えられるか。(→牛耕式)</p>
<p>手書き文字の歴史 ー西洋では?・東洋では?ー (2時間)</p>	<p>○一部のエリートのみが文字を司っていた時代。書記・僧侶は神聖な文字をどのように書いていたのか。 ・実際当時使われていたようなペンでゴシック体等の書体を書いてみる。</p>	<p>○西洋と東洋との文字の違いを用具に探る。 ○紙の発明がどのような意味を持っていたのか。和紙と洋紙の違いなどを調べる。</p>
<p>日本における文字 使用の歴史 (1時間)</p>	<p>○日本で漢字を取り入れて日本語を表記していく過程でどのような工夫があったのかを考える。</p>	<p>○漢字という表意文字をどのようにして表音文字化したか。</p>
<p>表意文字から表音文字へ (1時間)</p>	<p>○当初の絵文字, つまり表意文字からなぜほとんどの国で表音文字に変わったのか。 ○中国では何故表意文字のままなのか。</p>	<p>○それぞれの国の歴史を元に, 文字使用の経緯について考える</p>
<p>印刷の歴史 ー西洋と東洋で印刷はどう扱われたかー (2時間)</p>	<p>○中国では, かなり早い段階で, 拓本というものがある。日本でも木版によって文字を刷っている。中国で生まれた金属活字による印刷とグーテンベルクの活版印刷を比べ, その後の普及の仕方などから文化の違いを探る。 ・活字をデザインする(神聖比率とは?)</p>	<p>○印刷の歴史を調べる(円筒印章など)。 ○現代のように手軽に印刷がおこなわれたのではないことを理解させる。 ○校内の石碑から拓本を探る。</p>
<p>西洋・中国・日本における文字文化 (2時間)</p>	<p>○漢字から仮名へ, 濁音・半濁音の扱いは。 ○表意文字から表音文字へ。 ○西洋の規格化された書体。中国・日本の変化を良しとする書体。芸術観の差は。 ○アルファベットと平仮名, 同じ表音文字なのに何が違うのか。 ○縦書きと横書き。書字方向について。</p>	<p>○簡単に説明をして, それぞれが問題意識をもって興味のあるテーマを選び, それについてレポートを書かせる。</p>

評価の観点と方法	教科学習とのつながりなど
<ul style="list-style-type: none"> ・文字の形が、用具によって必然的に定まりやすいことが理解できたか。 ・文字の書き方の違いによって、文化的な差異・考え方の違いが理解できたか。 ・書字方向が定まってくる過程、条件などをいろいろな角度から考えることができたか。 ・用具の変化と文字の関係を、西洋と東洋を比較しながら考えることができたか。 ・東洋では「にじみ」や「かすれ」をも取り入れた表現。にじまない紙を作り出した西洋。余白に対する考え方の違いなどから、文化の差を理解できたか。 ・現在の、漢字・平仮名等の使用の仕方も含めて、漢字を取り入れた時の不都合・工夫等が理解できたか。 ・漢字で日本語を表記していった経緯、それぞれの国の歴史を考えあわせて、表意文字から表音文字への流れを類推することができたか。 ・活版印刷以前の印刷について調べ、探求したか。 ・拓本を採ることができたか。 ・選択した課題について、探求し、いろいろな角度から考察することができたか。 	<p data-bbox="927 324 1433 398">文字の成り立ちについて地域性を踏まえて考察する（地歴）</p> <p data-bbox="927 488 1318 562">文字の書き方を美的に把握する（美術・書道）</p> <p data-bbox="927 645 1433 719">素材・材料について科学的な見方・考え方を養う（理科）</p> <p data-bbox="927 801 1347 875">国語の成り立ちや特質を理解する（国語）</p> <p data-bbox="927 958 1318 1032">言語文化に対する関心を深める（国語）</p> <p data-bbox="927 1115 1433 1234">それぞれの国の生活・文化の地域的な特色について理解と認識を深める（地歴）</p>